

常盤塾 議事録

日時：2016年8月20日（土）15：00～18：00

場所：新国際ビル MBFハウス

文責：常盤塾ライター 秋元裕太（前半）、鈴木雅也（後半）

メンバー：常盤さん、片平先生、上原さん、松崎さん、昌子さん、丸山さん、安梅さん、
古川さん、古城さん、出井さん、松山さん、松永さん、大下さん

○アジェンダ

- (1) 1分間スピーチ
- (2) 常盤さんのお話
- (3) 『ものの見方』後半（外山滋比古） 発表者：昌子さん

(1) 1分間スピーチ

●松永さん

19世紀は歴史的思考、20世紀は地理的思考。では21世紀は？モノからコトへ。自動車産業の質変化。先進的企業の背後にはIT企業の存在。

●出井さん

戦隊ものは今年で40年。今も昔も赤がヒーローなのは変わらないが、昔はピンク1人だった女性が今は青と白の2人に。2月に新シリーズが始まり年末にピークを持っていく番組構成の上手さが長年続く秘訣では。

●古城さん

退職後ABCクッキングに通っている。リンパ腫の癌を抗がん剤なしに食事のみで完治させた知人の方が本を出版。人間の歯は、臼歯・門歯、犬歯が5：2：1の割合であり、それぞれ役割は決まっている。

●古川さん

中学2、3年向けの化学体験教室へ。気体は温めるとどうなるか？粒子の運動量が増えて膨張する。では、粒子自体の大きさが膨張することは？可能性を頭から否定しないことが教育において大切。

●片平先生

男の日傘。非常に涼しい上に、UVカット機能なども。1本1万1千円。いずれ男の日傘のブームはやってくる。

●常盤さん

変化とともに生きる。土の中から変化をよく読むセミの営み。自然の攻防戦から学ぶこと

は多い。昆虫の知恵や微生物の生き方など。人の生き方をいくら研究しようと、それ以上のものは得られない。

●松山さん

今大会のオリンピックでよく目にする「初めて」「何年ぶり」という表現。代々木に国立のスポーツ専門の養成施設がある。科学的なアプローチが奏功。戦略的メダル獲得スポーツに注力。

●丸山先生

農業のビジネスモデル。三ちゃん農業は持続可能なビジネスモデル。伊勢神宮の式年遷宮に似たもの。

●昌子さん

今夏ベランダでゴーヤカーテンに挑戦。でも5cmほどしか成長せず。マンションの7階には虫が来ないため受粉できないことが原因。人工的に受粉させることで10個を収穫。

●松崎さん

娘がイギリス留学。日本とイギリスとの勉強の仕方の違い。日本はレクチャーを聞きに行くだけ。イギリスではレクチャーは本に任せ、それに対するエッセイを書きそれをもとに授業。その訓練の繰り返しによって、自分の言葉でしゃべれるようになる。

●大下さん

日本でアヘン戦争が起きなかったのはなぜか。イギリスのアームストロング砲よりも優れた大砲が日本にはあったから。鍋島藩産の大砲。不覚にもつまらないと思っていたテレビ番組からそれを学ぶ。

●鈴木

バドミントン競技における左利き選手の躍進。シャトルの羽の構造上、右利きよりも左利きの方が回転が有利になる。

●秋元

体操競技を見ていて、人間の創造性と柔軟性によって織り成される表現の幅に感動。

(2) 常盤さんのお話

日常のなぜに気づこう。「思考の整理学」で幾つかのことが指摘。常盤さんがそれを潤色したお話。

自分の頭で考える。自分の思いを何かに変えて表現するのがグライダーと飛行機。

・グライダー＝滑空の時はカッコいい。しかし自力では無理。

・飛行機は自力で飛べる。自ら行動をとれる。

→飛行機型の人のほうが魅力的

ある時漫画家のコラム→漫画家の日本語がうまい！

- ・なぜ？ 読んでいて切れ味が良い。
- ・なぜ？ 漫画は大切なものだけ書く。他は捨てるという表現方法。これをしよう。何が物の本質かわからないと書けない。

生活そのものの中に、なぜがある。

いろいろなものに接することが、なぜの出発点。やり過ぎさず、疑問を感じることで世の中が面白くなる。ちょっとしたことに気づく。本能的なもの。

もう一つ、他人との雑談が大切。

生活とは何か。それは他人と触れ合うこと。自分と価値観の違う人との雑談でいろいろな面白さが生まれる。本にはない面白さ。何気ない一言に触発され、アイデアが浮かぶことがある。おしゃべりの効用。

AIが囲碁や将棋をするようになった。人間の知能が負ける？人間にしかできないことは？

亀は効率とかスピードとかからはかけ離れている。しかし亀は強い。ウサギとカメの競争。競争の仕方を変えると、島までの競争に変えるとカメが勝つ。
→強いかわ弱いかは条件によって変わる。要は置かれた条件、環境による。

人間はできることを探すべき。独自性を持って、物事を考えると面白い発想が出る。ごちゃごちゃを楽しむ柔軟性が必要。

失敗などいろいろな悩みがあるからこそ面白い。大切なのは柔軟性と前向きな活力。そこに人生の出発点がある。

イギリスの大学はおしゃべりばかりしている。レポーターが発表し、教官や他の人がコメントして共有。いろいろなこと知ってる、ジョークがうまい。

WW2の時ドイツ優勢。ロンドン侵入 ハロッズの建物もやられる。

広告に「入りやすくなりました」と書く。茶化しながらも残ったものを売るセンス

日本だったら大擧げ。炎上もユーモアが足りない。落語は漫画と逆で無駄なことだらけ。問題をひっくり返して無駄なことばかりつなげる。無駄をひっくり返して本質に迫っている。めちゃくちゃな人生の人の話の方が面白い。逆転の発想が大切。

昆虫は条件がちょっと違うだけで足とかの形が違う。昆虫は善良？毛虫は昆虫？

害虫とか雑草は失礼。常盤さん家族で食事の際、孫の名前を間違えてしまった。子供でも怒る。山に登っていたとき、上高地ガイドさんが「高山植物です」これはガイドになってない。

(3) 『ものの見方』後半 (外山滋比古) 発表者：昌子さん

松永さん：鈍とは遠目に考えること。人間は基本的に相対基準。時間も相対基軸。金曜日の午後から議論。ブレインストーミングを延々とやっても答えが出ないものもある。行くところが決まっている議論とそうでないもの。泉の栓を抜くこと。

昌子さん：局面局面に応じて人がやるのか。

上原さん：普段の日常業務と関連のないことは、その時間が取れないと厳しい。

古川さん：結論のわかっている映画しか見ない人と初めてのものを楽しんで観る人の2種類。着地点の見える議論の好きな人とそうでない人、そうでない人の方がマイノリティ。

松永さん：新しい商品開発の場において、プロペラ機は必要。

片平先生：引き出しのない人間はダメ。持っている引き出しが全部違う人同士もダメ。2割くらいがかぶっていることが大事。うまが合うか合わないか。

古川さん：人との相性。

松永さん：軸が合うか合わないか。同じ引き出しを持った人間が集まっても新しいものがないならば、ブレインストーミングをやっても仕方ないのでは。

松崎さん：JR九州の事例。移動手段としての鉄道ではなく、鉄道に乗ること自体が楽しくなるような発想。

片平先生：前任の経営者を絶対に否定しない。肯定する。

上原さん：見方は状況次第。イエスマンではない？

片平先生：違う。

松永さん：安定して飛んでいるときはいろんな人間がいる。ところが墜落しそうになると突然イエスマンばかりに。

片平先生：結論のないものに対してどれだけ議論できるか。モビテリィ。ベンツのキーワード。

古城さん：ホンダはモビテリィのリーディングカンパニー。人が生活する限り動く必要があるという考え。自動車だけではない。

片平先生：エルメスのバッグもこれに似たもの。エレガントなお金持ちとともに年間200の新製品プロジェクト。単なる贅沢品作りではない。

松永さん：明治時代にエルメス職人が日本の唐草模様をトレース。だから日本人の心に通じる商品は生まれる。

片平先生：職人が世界の現場を知っている。

○今後の進め方

今回は、片平先生による禅についての発表。
次々回は、今田さんによる『科学者と頭』の発表。
それ以降は今後検討。